

アフリカ・ウガンダ国に勤務して

岡 尚 平*

第二次大戦後植民地からあいついで独立を勝ちとった発展途上の国は、経済自立をめざして意欲的に開発に取り組んでいるが、古い組織に新しすぎる手法を持ち込んだため、開発は意欲のほどには進まず、先進国との発展の差はますます開いていきそうである。その差異は人類の平和的発展の障害になるので、国連貿易開発会議で70年代を「第二次国連開発の10年」として、南北問題にいっそうの努力をすることになった。

日本もその主旨には全面的に賛成し、種々の戦略が検討された。そして財政援助、特惠問題ばかりではなく、一つの方法として、相手政府内部への職員のパ派遣という方式もとられている。筆者はこの派遣計画に基づいて、海外技術協力事業団を通じて、昭和45年より満2か年間に、東アフリカ・ウガンダ国への二国間政府ベースの援助計画の一員として道路建設のために参加した。

任地では Ministry of Works, Communications and Housing (M.O.W.) の土木および、道路部門で Chief Construction Engineer の辞令をもらい、政府施工の新設道路工事の約30か所について、施工業者と契約が終了した段階から、竣工して維持部門へ引き継ぐまでの作業を担当した。道路工事は主として土工および簡易舗装であるが、作業内容として官給する鋼排水管の輸入手続、路盤安定に用いるセメント・石灰の公社からの割当調整、用地買収のための地元関係者への連絡と段取り、工事の品質管理、出来高に対する支払いと、検収後維持管理部門への引き継ぐまでのすべてで、小さい政府組織の数少ない職員のため、同部門で協力して働く同僚もほとんど得られないまま、永く勤続している他部門の職員に過去の慣例を尋ねまわり、庶務規定などを探しつつ従事した。その間には大蔵省への予算交渉、ローン先の監査受験など、ウガンダでの経験のない者には多過ぎると思える事務をこなしてきたと思っている。

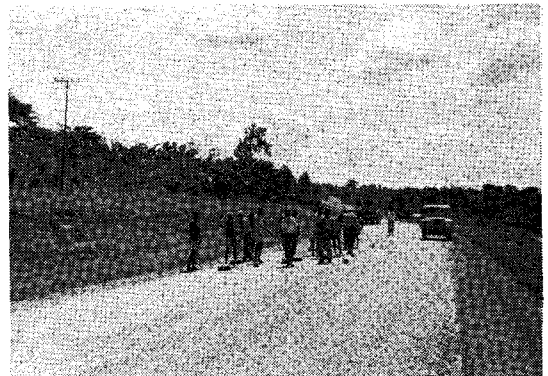
事業省は、ウガンダ国の中央省19のうちでも国防省に続く大型予算の執行責任をもっている。総勢は約50名のスタッフ職員で、政府の開発施設投資の執行と、東アフリカ三国共同管理にかかる運輸・郵政の事務を含んで

* 正会員 大阪府土木部主幹

いる。私は大臣、次官と2人の次官補に続く地位であったが、その重責に対して、補佐した職員は断続的に1人が加わったのみである。

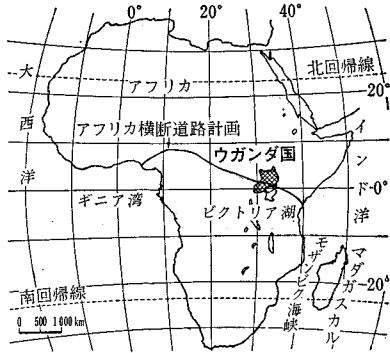
ウガンダは、1962年に独立国となり、1965年に第1回革命を経験しているの、旧宗主国であったイギリス人職員数が減ってきたというものの、政府内には彼らと彼らによって連れてこられたインド人、および二国間援助によって先進国から派遣された外国人によって運営されていた。したがって、責任のある職務についているウガンダ人が20%以下であるのにまず驚かされた。さらに、各職務を忠実に、古い時代の遺産を守っていくのはほとんど短期雇用(2~3年)でやってきたものも含んだ外国人であった。

このような組織集団のなかの一員として働いてみて、何が最も発展を害しているかを考えたとき、第一に指摘されるものが、運営の不円滑であった。事業省は他の省に比較して、外国の近代産業にふれる機会が多いため、職員中にも外国人が多い。その短期雇用の外国人でも、先進国から派遣された者である場合は、必要事項を互いに連絡を保ちながら、その情報交換が成り立っている。しかし、その組織のポイントに発展途上国の人が責任者として座ったとき、かれらの間には部族、宗教などによる内部抗争が潜在していて行政ベースで全体をとりまとめるほどの実力を揃えた者が育ちにくいし、また育ってはいるが、量において不足がちである。ここに、発展途上の国が意識のうえでは大いに背伸びをしながら、現実



(2車線で2層舗装、散布したアスファルトに単粒度の砕石をまいている。)

世銀ローンによる Masaka-Kyotera 道路の建設状況



ウガンダ国位置図

の問題となると十分な機能を発揮できない要因がありそのような気がする。

意志決定にかかる取り扱いも難点の一つであった。植民地として宗主国から多勢の人が派遣されていた時代には、組織とその責任態勢あるいは庶務規定がはっきり定められていたと思う。しかしながら、独立の過大意識から、ルールの原則と運用の特例をとりちがえて、権力を最大のルールと化す傾向が現われてきていた。このことは、当然規則的な事務処理ですます範囲の仕事にまで権力の介入となり、先進国から派遣された職員が契約書に基づく常識に最も忠実にと頑張っているのに、しばしばその勇気を失なわせる原因となっている。

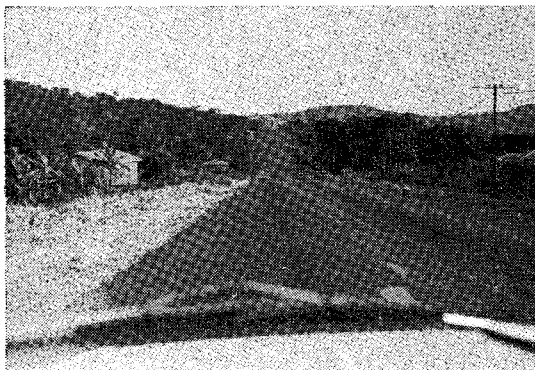
かつて、入植してきたイギリス人はどんな考え方を持っていたらどうか。母国の発展と、その産業開発に必要な産品を求めて豊かな熱帯地域で智恵と資本力を活用してみずから開発を行ない、その開発利益を本国へ持ち帰っていたと批難されている。「この豊かな熱帯地域は、ある特定の民族のためのものでなく、人類のために与えられたものであるから、開発はだれの手によって行なわれてもよい。そして原住民には産業が定着することによ

って雇用の機会がふえ、彼らの土地への定着が行なわれるという利益がある」とまとめた Lugard's Theory が最も端的に入植思想を代弁しているように思えるし、出合った多くのイギリス人にも、その思想に同調する人が多かった。そして、国籍を忘れて、自分の専門を極力生かして、この豊かな土地の開発に励んでいた。

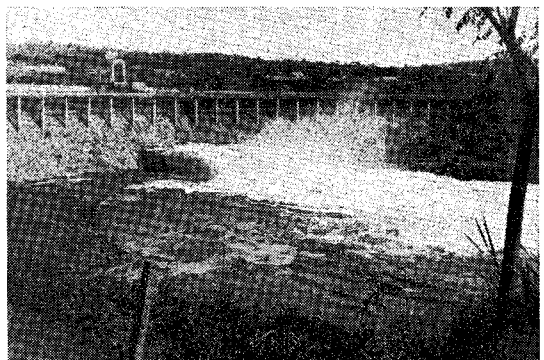
その他の先進国で最近進出してきたのは、本国の得意業種を持ち込むことによって、本国の市場確保と民族の分散定着形もあって、プラント輸出的なものが多かったが、プラントの試運転期間はさておき、これをこの国の管理者に引き渡したのちまで長く営業運転がなされているかははなはだ疑問で、風俗・習慣の調査不備から円満な活動がとまり、2年をまたず休業に至るものも見受けられた。これらの投資では、現地での企業活動だけでなく、生産された商品の販売斡旋までの広いアフターサービスを含めることが大切ではなからうか。さらに、二国間ベースの企業進出の場合は、将来にわたって国際競争から保護してやれない場合、民族主義の嵐を受ける可能性は十分にありうる。

これに反して、国際機関を通じての開発援助は、政治色を排除した形で行なわれるので、将来の戦略としてはこの方向に進んでいくものと思う。道路などの社会資本整備は、この最もよい例として取り上げられている。この場合、投資の便益はせつかに求められないだろうし黒字国が拠出した資金の利用にあたって、ローンのソフト化へ進み、将来、この形が最も受け入れやすいのではなからうか？

私自身、ウガンダに勤務する間に、日本人的な性急さで当時進出していなかった日本の建設業界の進出になんらかの足がかりをつくれるようにとのあせった気持があった。しかしながら土木工事は土地事情に熟知を要する分野であり、長期的に定着して活躍する業種で、日本政府あるいは業界との具体的な話が進まなかったのは残念



(Kampala (首都)—Tororo (国境)—Nairobi, Mombasa (ケニア) の幹線道路。アフリカ横断道路の一部に認定予定されている。
代表的な東アフリカの道路構造



(ビクトリア湖 (世界第2位の淡水湖) からナイル河に連なるところ)
1954年に完成した出力15万kWのOwen Power Dam

な気持がする。しかし、一方このことは、初めて相手事業省で日本人内部職員として勤務して、だからも特別の色目でみられることが全くなく、かえって、自分の良識のままに動きやすかったと思っている。

余談はさておき、貿易の黒字責任を問われる世界のすう勢になってきたので、日本政府としても積極的に開発途上国の援助について再検討の時期にきているのでなかろうか。生意気のようにであるが、わが国のいままでの開発途上国に対する戦略は、相手国の経済活動の発展より投資国の資源や市場確保にあったように思う。しかし、開発とは共存繁栄を目標に、何を開発し、どのように運営していったらよいかの長期企画指導を含めて、相手側

の立場にたって考えてやる必要があろうし、これらの開発戦略を一貫して応援する国際的な力を日本もつけてきているし、さらに進んで取り組んでいく時代が到来したようにえる。

2年間の滞在経験から感想を述べると以上のものであろう。開発途上国の悪口を少し書きすぎた感じがしないでもないが、実現に見聞したことを、ありのままに記したまでである。開発途上国でも、そのうちには目ざめてくるであろう。われわれは、長く彼らに力を貸してやりたいものと思う。

(1972.10.24・受付/同 12.20・再受付)

土木計画学講習会テキスト ●土木計画学研究委員会編●

1968・8 開催 **1** 1100円 ●価格改訂
●B5・122頁 **1000円** ●会員特価千140円

●土木計画問題のシステム化——ネットワークシステムを例にとって——/吉川和広 ●調査方法および資料整理/高橋 裕 ●道路計画の基礎資料/山根 孟 ●将来予測論/加藤 晃 ●港湾の整備計画/高田陸朗 ●都市の一般用水需要の将来予測/首藤和正 ●

1969・9 開催 **2** 1200円
●B5・122頁 **1100円** ●会員特価千140円

●調査計画法/河上省吾 ●情報の抽出と予測/中村慶一 ●土木計画のための線形計画法/吉川和広 ●バイパス計画の実例/稲見俊明 ●水資源計画の手法/佐々木才朗

1970・7 開催 **3** 1200円
●B5・132頁 **1100円** ●会員特価千140円

●都市計画の数学的手法/五十嵐日出夫 ●観光計画の手法/鈴木忠義 ●建設工事のための割当て問題/吉川和広

●待ち行列の理論とシミュレーション/越 正毅 ●工程管理のためのネットワーク手法/河原畑良弘 ●PPBSと公共施設計画/倉島 収 ●

1971・8 開催 **4** 1200円
●B5・136頁 **1100円** ●会員特価千140円

●上下水道における最適化手法/末石富太郎 ●内藤正明 ●宅地造成における最適化手法/河原畑良弘 ●鉄道計画における最適化手法/岩橋洋一 ●港湾計画における最適化手法/工藤和男 ●

1972・9 開催 **5** 1100円
●B5・88頁 **1000円** ●会員特価千140円

●費用便益分析の理論的背景/阿部 統 ●公共投資における経済分析/大塚友則 ●交通計画における費用便益分析/菅原 操 ●水資源計画における費用便益分析とコストアロケーション/佐々木才朗 ●道路計画における費用便益分析/山根 孟 ●港湾計画における費用便益分析/川崎芳一 ●

橋 1971-72

新刊発売中/

A4判 94 ページ・一部カラー 1800円(千170)

土木学会田中賞を記念して出版された橋梁年報の第6冊目

内容 ●鋼橋架設のいろいろ ●昭和46年度田中賞作品部門受賞作品 1.吉井川橋梁 2.京浜大橋 ●鋼橋1971年の展望 柳津橋/阿蘇大橋/中央橋/高根大橋/上吉野川橋/山陽新幹線新神戸駅生田川橋梁/日高大橋(三岩1号橋)/馬桑橋/河口湖大橋/木津川橋/首都高速3号線(Ⅱ)期三軒茶屋立体交差橋/山陽新幹線大阪市内高架橋/鈴鹿川橋梁/菊水歩道橋 ●コンクリート

橋 1971年の展望 芳見橋/真崎大橋/大淀大橋/西金大橋/釜屋橋/山陽新幹線旭川橋梁/別府川橋梁 ●1971年竣工主要橋梁一覧 ●橋梁の大ブロック架設工法 ●昭和46年度土木学会田中賞選考経過

1966-67(絶版), 1967-68(1500円), 1968-69(1600円), 1969-70(1600円), 1970-71(1700円), 各巻千170円・バックナンバーあり

土木 雑誌 施工技術

3月号 2月20日発売 定価 360円 (〒40円)

〈特集〉アースアンカー工法

アースアンカー工法の展望	アースアンカー協会々長	市瀬良男
アースアンカー工法の設計	新技術開発	岡崎正弘
アースアンカー工法の施工		
チューブ加圧型アースアンカー	東洋基礎工業	池田勇
グラウト加圧型アースアンカー	ケミカルグラウト	柴崎光弘
拡孔型アースアンカー	三信建設	佐藤武
メカニカル・薬液型アースアンカー	日特建設	磯和祺祐
アースアンカー工法の施工実例		

〈連載講座〉

特許からみた建設産業の動向	特許庁	池田仁士
—基礎工技術を中心に—		
海洋土木の新しい動き	東海大学	長崎作治
現場計測技術ノート	間組	藤田圭一ほか
基礎工法の選び方	鹿島建設	島田安正ほか
ネットワークの実務	久保田建設	野木貞夫

土質安定 工法便覧

京都大学 松尾新一郎 編
A5判 730ページ
定価 7,000円(〒300円)

土質安定工法の意義と分野、工法選択のポイント、そして、34の工法を用途、原理、設計、施工法、施工例、施工上の注意点にわたって、図を多数用いて解説。〈呈内容見本〉

施工管理技術の 基礎知識

吉野技術士事務所 吉野次郎著
A5判 210ページ
定価 1,200円(〒150円)

日刊工業新聞社

東京都千代田区九段北1-8-10

トンネル技術者のための 岩盤力学入門

Q. イザクソン著 A5判・260頁 ¥1,400
国鉄技研地質研究室・高橋彦治・小林芳正共訳

地圧の問題を懇切に、しかもやさしく解説しているものであり、わが国におけるトンネル工学の、これまで比較的稀薄であった分野を埋める意義をもつものと考えられる。本書によって、初学者はもちろん、現場技術者にとっても、トンネルの岩盤力学は一般と接近しやすくなり、今後この分野での研究が一層盛んになることが期待される。——東大名譽教授・岡本舜三

【近刊】

本誌1月号で紹介されたティモシェンコの名著

材料力学史 (仮題)

History of Strength of Materials
は、東大名譽教授・最上武雄監修
日大助教授・川口昌宏 訳
で近く刊行の予定/ご期待ください。

凍結工法

ドルマン、トルウバック共著/原田千三訳編

A5判 230頁 ¥2,200

凍結工法の設計計算の理論(計算式、モノグラムなど)と本工法によって施工した実例多数、問題点を詳細に記している。計画から施工例まで、全てにわたって著わされたものとしては唯一の書である。

土質工学の基礎 —土の力学的挙動

ヤン、ワーケンティン共著/山崎不二夫、山内豊聡共訳

A5判 450頁 ¥2,400

土を物理的性質、化学的性質、さらに土の構造や水分から正しく捉え、これらの認識に基づいて、力学的内容を発展させた広く有用な教科書。

現場技術者のための 都市土木 —土と水の諸問題

鹿島建設土木設計部長・工博 福田秀夫 共編
鹿島建設技術研究所副所長 坂野五郎

B5判・300頁/図版・便利表多数 ¥2,800

都市土木に関連する土と水の問題——土留・排水・圧気・地盤改良等——について理論と実際から追求してまとめた、現場技術者のための実務必携書。

明日を築く
知性と技術

鹿島出版会

〒107 東京都港区赤坂6-5-13 電話 582-2251 振替東京180883